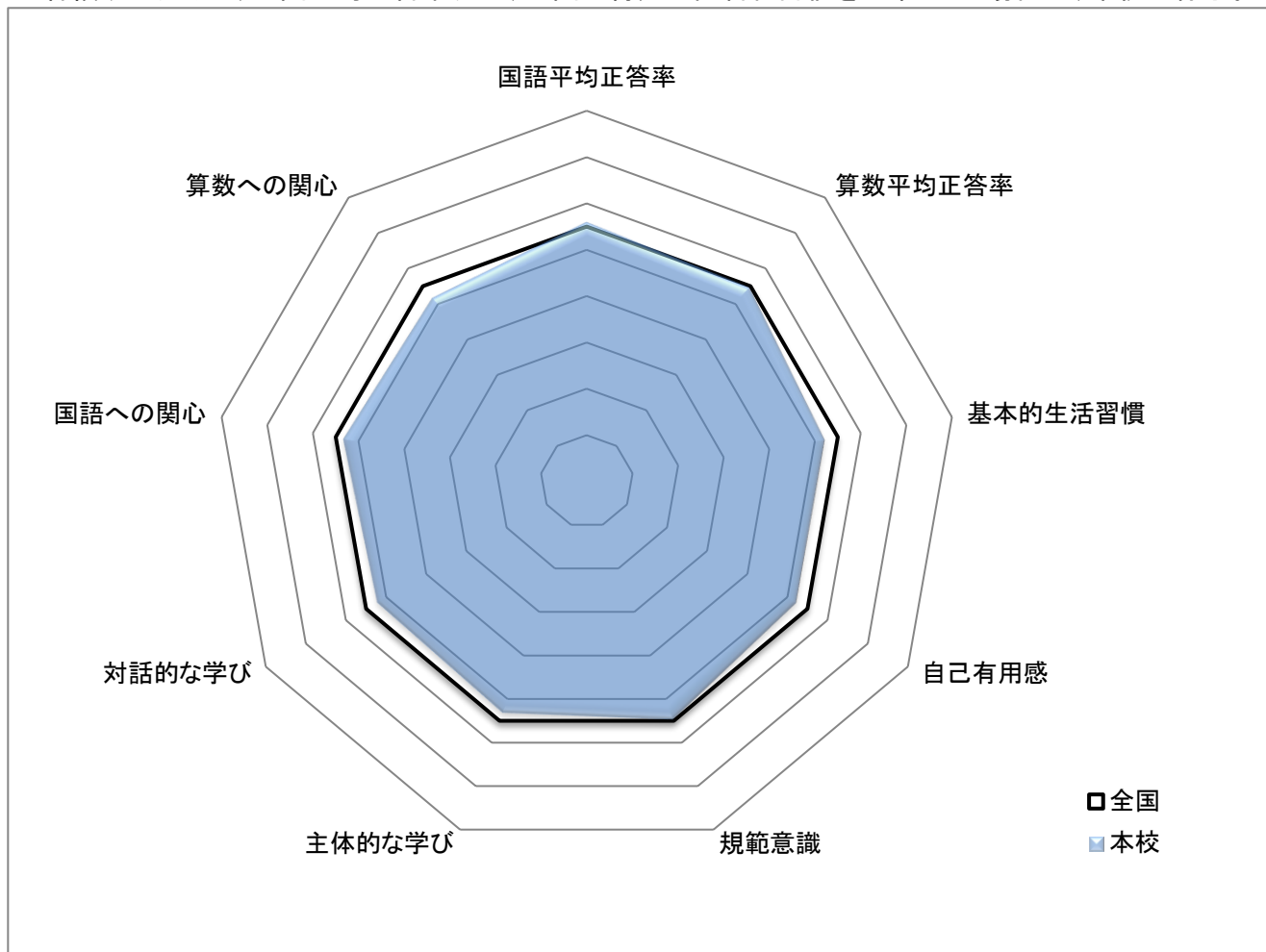


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

国語科では、平均正答率は69%で、全国平均を2.7%上回った。領域別の結果を見ると、すべての項目で全国の前正答率を上回っているものの本校としては、「話すこと・聞くこと」が他の項目に比べ正答率が約5%程低くなっている。  
算数科では、平均正答率は63%で、全国平均を0.4%下回った。昨年度に比べ、正答率は上昇したものの「図形」の領域の平均正答率は全国より2.5%下回っている。また、「思考・判断・表現」の観点の正答率が「知識・技能」に比べ約20%程低くなっている。

《授業改善のポイント》

国語科では、「話すこと・聞くこと」の能力を伸ばしていくために、小グループでの交流など、友達に考えを伝えたり、友達の意見を聞いて理解したりするような活動を積極的に取り入れていく。また、話したり聞いたりする過程で、書く活動を取り入れ思考を整理させることで、分かりやすい話し方や的確な聞き方を習得させていく。  
算数科では、身の回りにあるグラフや表、図などから情報を抜き出し、考察をする活動の中で、概念や法則を理解し、自分の考えを深められるようにする。また、相手に伝えることを意識して自分の考えをノートに書いたり、自分の言葉で説明したりする機会を増やすことで「思考・判断・表現」の能力を伸ばしていく。

《チャートの特徴》

国語や算数への関心は、昨年度に比べ低下している。学習に対して自信がない児童が多く見られるため、友達との対話的な学習の充実を図っていく。その中で、自分の考えを広げたり、深めたり、人との共通点や相違点から自分のよさを見つけたりすることで自己有用感を高め、学習への関心や意欲も高める。そうすることで、正答率のさらなる向上にもつなげていきたい。  
基本的な生活習慣では、全国平均を少し下回り、学校の様子でも授業に集中できていない児童がいるのが課題である。学習だけでなく、生活リズムを整えることで、家庭学習を含めた学習に対する前向きな気持ちの基盤を構築し、学習に主体的に取り組める児童を育てていきたい。

《家庭・地域への働きかけ》

引き続き全国学力・学習状況調査の結果をホームページ等で公表したり、保護者会や個人面談を通して児童の学習状況を丁寧に伝えたりしていくことで、漢字学習・音読・計算問題などの家庭学習の習慣化等について協力を促していく。